

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)															
ES13C001		教材開発演習(Seminar in Development of Teaching Materials)					教職実践コース科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
必修	2	1	大学院教育学研究科	後期		氏名 竹中真希子、立川研一 E-mail mori-saizou@oita-u.ac.jp ken-tatsukawa@oita-u.ac.jp tmakiko@oita-u.ac.jp																
授業の概要	・教材開発に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																					
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 教科指導における教材研究に関する実践的知識について深く理解する																						
目標2 新しい学びに対応した教材開発を行うための実践的知識について深く理解する																						
目標3 学校現場の事例を題材として現状の課題を発見することができる																						
目標4 現状の課題に対する具体的な対応策を立案・検討することができる																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																						
2 教材開発の基本事項に関する講義																						
3 教材開発の実践事例の分析 - 科学的思考力を育てる教材																						
4 教材開発の実践事例の分析 - 言語的活動を活性化させる教材																						
5 教材の教育効果分析の考え方と方法に関する講義																						
6 教材の教育効果の分析例の検討 - 量的な分析による効果測定																						
7 教材の教育効果の分析例の検討 - 質的な分析による効果測定																						
8 新しい学びに対応した教材開発に関する講義																						
9 新しい学びに対応した実践事例の分析																						
10 新しい学びに対応した実践事例の分析																						
11 教材づくり演習 - 科学的思考力を育てる教材づくり																						
12 教材づくり演習 - 言語的活動を活性化させる教材																						
13 作成教材を使った模擬授業の実践と評価 - 模擬授業による提案																						
14 作成教材を使った模擬授業の実践と評価 - 教育効果の評価																						
15 学習成果の発表と総括																						
ラーニング	A:知識の定着・確認		授業において設定する演習では、ペアワーク、グループワーク、討論など、アクティブラーニングの手法を取り入れ、院生同士の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。					工夫	その他													
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	次時の学習内容に関する予習および事前準備(資料収集、資料・文献精読など)(10~20h)																				
	事後学修	演習において討議したことを整理しまとめるとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、自己の学修到達点を明確にする。(10~20h)																				
教科書	特になし。授業中に指示する。																					
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10										
	複数教員による多面的・総合的評価(課題への取り組み、討論への参加など)	70%																				
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																				
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教を請うこと。																					
備考																						
リンク	URL																					

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	市原靖士：滋賀県公立中学校教員 立川研一：大分県公立中学校教員・指導主事
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	教材の教育効果の分析例の検討